

# NEWS!

Vol. 42-2

No. 208

令和5年春号

編集・発行

松浦機械製作所

## 伊達公子さんによるトークショーを開催

「グローバル人材の育成」について松浦社長とトークセッション



2023年3月3日マツウラ本社にて、元プロテニスプレイヤーの伊達公子さんを招いたトークショーが開催されました。当イベントは2023年4月に女子テニスの国際大会が福井県で初めて開催されることから縁が生まれ実現したもので、「グローバル人材の育成」をテーマに伊達さんと松浦社長とのトークセッション形式で進行されました。

伊達さんからはプロアスリートとして、また後進の育成に尽力する指導者としての経験から「身近な目標の『更にひとつ先の目標』を持つこと。またその目標の達成に必要なことは何かを『逆算』して考え努力を続けることが重要。」といった、キャリア形成に関する自身の考え方についてお話ししました。

会場となった本社食堂にはマツウラの社員200名以上が参加し、社員から伊達さんへの質問や、フォトセッションなども設けられました。トークショーの様子は武生工場や各営業所にライブ配信されたほか、地元テレビ局や新聞社も取材に訪れるなど盛況なイベントとなりました。

### 日本のへソ

### 福井 No.206



福井は日本のドマン中「日本のへソ福井」第206回目は「福井県チャレンジ応援チーム」の話です。福井県庁では、2021年4月より地域戦略部県民活躍課にてチャレンジ応援チームを設置し、福井県内で活躍する若者の応援を行っています。同チームの活動の1つとして、同課の寺井優介さんがチャレンジ応援ディレクター(COD)としてYouTubeや広報誌、SNSなど様々なメディアにて10~30代の県内でチャレンジをしている若者を発信しています。寺井さんは県庁内にはほとんどおらず、日々福井県内を奔走してとにかく若者に会い、話をし、SNSも毎日更新しています。福井でチャレンジする人々の例は、越前和紙や越前漆器など伝統

工芸の技術を活かして新しいものを生み出す人、福井県へUターンし観光宣伝隊として福井の魅力をPRする人、福井県からオリンピック出場を目指す人など、多分野に渡ります。これらの情報は福井県公式ホームページのほか、「福井県若者情報発信局」というスマホアプリにて発信されており、アプリ内に掲載のSNSで双方向にメッセージのやり取りもできることから、新たなビジネスに繋がったケースもあるとのことです。

また、2023年3月に同チームでは新たな取り組みとして「カンパニー・チャレンジ応援ディレクター」制度を発足。寺井さんのように若者を応援するリーダー(カンパニー・チャレンジ応援ディレクター)を企業内に設置し、自社の若手社員に対して地域活動への参加促進や、若者同士のネットワークづくりを推進することがねらいとのこと。行政と企業が一体となり、オール福井で若者のチャレンジを後押しすることで、福井県内全体の活性化を期待します。

# ユーザーを訪ねて

No. 193

## 株式会社エー・ピー・エム

### GibbsCAMで培った『プログラ

今回のユーザーを訪ねては北関東自動車道の太田藪塚ICから車で25分の距離にある、株式会社エー・ピー・エムです。同社はアルミを専門とした部品加工を手掛けており、半導体関連装置をはじめ、液晶関連、食品関連、医療関連など、取引のある業界は多岐に渡ります。取材には布施浩二 代表取締役社長にご対応頂きました。布施社長は同社の2代目にあたり、2018年に現職に就任しました。会社経営に携わる傍ら、現役の機械オペレーターとして同社のモノづくりの最前線に立たれています。



▲ ㈱エー・ピー・エム 外観



▲ 布施浩二 代表取締役社長

### マシニング加工の将来性

同社は先代であり布施社長の父にあたる、布施雄一 現会長が創業した企業です。創業当時のお話を布施社長に伺いました。「元々、旋盤師であった父がマシニング加工に将来性を見出し、独立したことから事業がスタートしました。創業当初からマルチパレットを搭載した横形マシニングセンタによる連続運転を得意としており、そのノウハウは現在も当社のモノづくりの根幹を支えています。当時からアルミ加工を得意としていましたが、鉄や鋳物、樹脂など様々な材料を取り扱っていました。ガラス繊維入りの樹脂を手掛けたこともあり、大変苦労しながら取り組んだことを記憶しています。」と布施社長。

### GibbsCAMの存在がすべて

同社で初となるマツウラ機は2022年12月に設備したMX-330 PC10であり、同社にとって初めての5軸機となります。しかし、同社とマツウラのお付き合いは、同社の創業当時からスタートしていました。布施社長はこう続けます。「初代である会長は当社を設立するにあたり『これからのモノづくりにはシミュレーション機能を搭載したCAD/CAMが必要だ』と考え、当時シミュレーション機能が充実していたGibbsCAMを設備しました。マシニング

加工の世界において仕事の良し悪しは、人はもちろんのこと、それ以上に機械に左右される部分大きいと私は考えます。更に言えば、実質的に機械を動かしているプログラムは非常に重要なファクターです。『競合との差別化を図るにはプログラム力を磨く必要がある』というのが先代から続く当社の理念です。全ての業界に言えることですが、特に半導体分野ではバリを嫌う傾向が根強いです。半導体関連での引き合いの多い当社では、面取りを限界まで入れるため、GibbsCAMのシミュレーション機能を活かしてプログラムを徹底的に作り込んでいます。取引先からも『エー・ピー・エムの製品は手仕上げ要らずだ』と評価を頂くことも多いのですが、その背景には創業当時から培ってきたプログラム力によるところが大きいです。当社の現在の発展については『GibbsCAMの存在がすべてであった』といっても過言ではないでしょう。」

### 10パレットといえばMX-330 PC10

「従来から当社では、マルチパレット搭載の横形マシニングセンタを使用した自動運転で収益を得るビジネスモデルを構築しています。そのためMAM72 Seriesをはじめとするマツウラの自動化・無人化のコンセプトには長年シンパシーを感じていました。」と布施社長。MX-330 PC10の設備に至った経緯について、次のように語ります。「創業時から稼働していた400角10パレットの横形マシニングセンタの後継機が必要となりました。選定に際しては既存機の仕事を十分にこなせることが前提条件でした。更に、将来的に対応できる仕事の幅を増やしたいとの思いから、当初は横形5軸機の設備を検討していました。しかし、搭載できるパレット数の制限や、既存機が主に担っていたバイス加工の使い勝手に対しては懸念がありました。最適な機械が見つからず悶々としていた折に、懇意

## ミングカ』

にしている販売店の会長との会話がきっかけで『10パレットの後継機は10パレットが良いのでは』と考えるようになりました。当時、私の中で『10パレットといえばMX-330 PC10』というイメージが強く根付いていました。懸念事項であったバイス加工もMX-330 PC10であればまさに『十八番』ではないかと考え、実際に設備する運びとなりました。』

### 5軸機での工程集約は楽しい

MX-330 PC10を設備した効果について、布施社長は次のように語ります。「私自身、機械オペレーターとして段取り替えに要する労力の大きさを痛感しています。また金属加工で生じる失敗の殆どは、段取り替えの際に生じる人為的ミスであることも事実です。それらの負担が軽減される意味で、5軸機による工程集約の恩恵は非常に大きいです。なにより5軸機での工程集約は楽しい。当社の他の設備機と比べ、遥かに効率的な加工ができるため、最近では図面を見ると『5軸機を用いて如何に効率化できるか』と、5軸機の使用を前提に思索する癖がついてしまいました。機能面では、マツウラ機に搭載されている『再開支援機能』が重宝しています。加工中にワークの状態を確認したいと思った際に、機械を一時停止させ、その後自動的に復帰できる機能は、当社の他の設備機には無い、利便性の高い機能です。』



▲ 22年12月に設備されたMX-330 PC10

### 人的リソースを活かすための設備投資

取材の最後に同社の展望について伺いました。「製造業に身を置く以上、設備投資は避けて通れません。その時代に最適な設備に投資することは極めて重要です。そのためには、必要に応じて投資に踏み切ることが出来る、健全な経営基盤を維持することが前提となります。個人的には『職人的』な考え方が好きで、尊重しています。しかし

## 株式会社エー・ピー・エム 概要

本 社 〒373-0847  
群馬県太田市西新町103-2  
TEL 0276-30-4058  
FAX 0276-30-4059

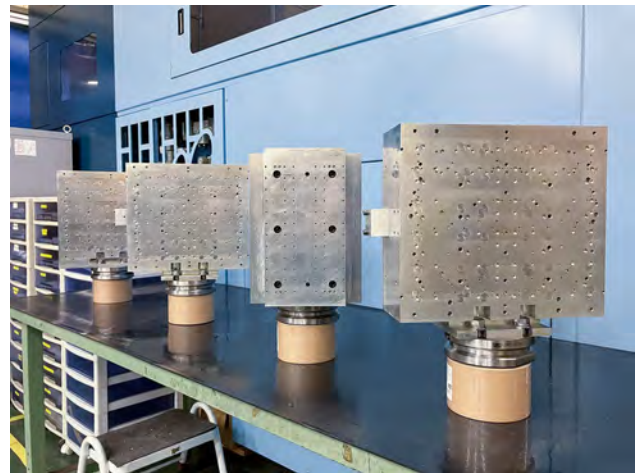
代 表 者 代表取締役社長 布施浩二

創 業 1997年9月

従業員数 15名

事業内容 アルミ専門の精密機械部品加工

今日の工作機械の進化を鑑みるに、機械オペレーターの職人的スキルがさほど問われない世の中に、今後もシフトし続けるでしょう。機械のオペレーションが自動化されることで、人的なリソースが生まれます。当社の強みでもある加工プログラムの作成や、企業のマネジメント業務など、人にしか担えない部分を強化するために、そのリソースを割きたいと考えています。今後の設備投資については、そのような人材活用を叶える方向に向けて進めていきたいです。」と語る布施社長。



▲ マツウラ機で使用される各種イケール

\*\*\*\*\*

布施社長は同社への入社以前から機械操作に慣れ親しんでいたとのこと。「高校の夏休みの間、独立前の父の職場でアルバイトをしていました。そこでは汎用フライスを使用し、治具の作成や下加工を担当しました。そのため汎用機械を扱う苦労は身に染みて理解しています。当時の経験があるからこそ、NC工作機械の有難みや、5軸機を使った工程集約の楽しさを噛み締めることが出来るのでしょう。」と布施社長。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取りご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



2022年5月からサービス開始をした **My Matsaura**。サービス開始当初から随時コンテンツ拡充を行い、Matsaura ユーザーの皆様さらにお役立ていただける内容となっております。

春は新入社員や人事異動によって、マシニングセンタを初めて利用する方も多くいらっしゃるかと思います。新入オペレーター向けの教育資料としてご利用いただけますので、この機会にぜひご利用ください。

## My Matsaura の特徴 ～知りたい情報を動画ですぐに入手できる～

✓ 新人マツウラオペレーターへの教育

✓ お困りごとの解決

✓ メーカーとお客様とのコミュニティ

**掲載カテゴリ** 精度調整、トラブルシューティング、パレット管理、工具管理、自動運転、IoT、芯出し など

本サービスでは、マツウラをさらに活用いただく為の情報を動画コンテンツで提供しています。

掲載コンテンツの中からおすすめの内容を紹介いたします。

### 初心者の方におすすめ



**工具データを活用し  
無人運転をサポート  
工具管理画面の使い方**

マシニングセンタの生産性を最大限引き出すために必要不可欠な工具管理。マツウラ自社開発の工具管理画面の使い方について約8分間で説明します。

基本的な工具管理画面の使用方法説明の他、応用的な使い方として工具データを用いてマクロで使用方法や工具寿命管理を活用した連続運転に関する設定方法を説明します。



**専用画面で  
手軽に工具長測定  
TLM機能(工具長測定機能)の使い方**

工具長を機内で測定する便利な機能、TLM(工具長測定)機能について約7分間で説明します。

この機能はツールプリセッタや全自動工具測定機能が無い場合に便利な機能で、専用画面内で工具交換から測定まででき、さらに手計算で工具長を求める手間を省けます。

### 活用方法のご提案



**タップサイクル時間を短縮  
AD-TAP機能の使用方法**

ねじ加工を行う際、タップサイクル時間を短縮させることができるAD-TAP機能の使用方法を約4分間で説明します。

AD-TAP機能とは、リジッドタップ機能の主軸回転数とZ軸の送り速度を完全に同期させる機能に、主軸回転加速度アップと戻り速度アップを加え、タップサイクル時間を短縮する機能です。AD-TAP機能の指令方法の他、AD-TAP機能とノーマルリジッドタップを使い分ける場合の指令方法を説明します。



**切粉トラブルによる  
機械停止を防止  
ワーク洗浄プログラムのご紹介**

加工後の切屑処理にお困りの方も多いかと思えます。例えば、切屑によりパレット交換トラブルで機械が止まってしまうことや、ワーク洗浄をいちいち手作業で行うことは生産性を低下させる要因となります。これらの問題はワーク洗浄プログラムを実行することでリスクを最小化することができます。

### ご登録の流れ

#### 1 利用申し込み

マツウラHPもしくは右のQRコードからユーザー申請を行ってください。申し込み完了後、申請したメールアドレスに確認メールが届きます。

#### 2 ご本人様確認

申請フォーム内のユーザー名・機械情報と当社にて保有している情報が合致するか確認致します。申込状況によって数日かかる場合があります。

#### 3 パスワードとログインURLの送付

申請したメールアドレスに **My Matsaura** ログインURLとパスワードをご連絡致します。パスワードはログイン後、プロフィール画面で変更可能です。



**My Matsaura**  
ユーザー登録申請

## 令和5年度 入社式



▲本年度は13名の新入社員が入社



▲入社式にて祝辞を贈る松浦社長

2023年4月3日、令和5年度 入社式が松浦機械製作所 本社大会議室にて執り行われました。本年度は13名の新入社員を迎えました。新入社員代表の松山喜尚さんは「失敗を恐れずに何事にも取り組み、一人前の社員そして責任ある社会人となるべく、決意を新たにしております。」と一同を代表し所信表明を行いました。

## 福井ユナイテッドFC 「新入社員 合同観戦企画」

マツウラは今年度も引き続き「福井ユナイテッドFC」をトップパートナー企業として応援します。リーグ開幕戦となった4/9 加茂FC戦では「新入社員 合同観戦企画」と題し、マツウラをはじめスポンサー各社の新入社員が観戦に訪れました。試合は1-0で福井ユナイテッドが勝利、試合後ピッチにて新入社員と選手との記念撮影が行われました。



第49回北信越フットボールリーグ  
福井ユナイテッドFC vs. '05加茂FC 2023.4.9 SUN



取締役 松浦 悠人



「最近の若者はうんたらかたら…」と、いつの時代でも言われるとは言います。私が読んだ書籍によると大きな社会変化の最中に我々はあるのだとか。さて、現代の世代間の考えの違いは何に起因するのでしょうか。

自分の仕事が世に足りていない何かを生み出すことに直接貢献できていた一昔前の世代。技術の進歩が目まぐるしく、自分の仕事が社会に変化を起こしている実感が目に見える形でありました。他の何かを犠牲にしても、仕事に没頭し達成し望むものを手に入れることこそが喜びだったと言います。

今の世代は生まれたころから周りにはすべてが揃っ

ていて、欲望を持ってないような世代です。ないものを勝ち得るために何かを我慢するという心理は理解できません。そして、すでに満ち足りている大きな世界はとても自分では変えようがないので、「仕事」「家族」「趣味」「SNS」等の身近な枠の中で自己実現の可能性を見出します。金銭や物理的な報酬よりも小さく多くの“自分の好き”を追求し、その全てのバランスがモチベーションにつながるというわけです。

今後どのような会社がこれからの世代には望まれているのでしょうか。第一に、彼らの属するコミュニティの1つとして優れた価値観を個人に提供する集団でないといけません。しかし、いくら会社がいい価値観を与えていたとしても、仕事が他の価値観を享受できる機会を奪ってしまったらご法度です。だからこそ、ワークライフバランスが今重要なのでしょう。「仕事のやりがいは大事だけど、それだけじゃないんだ」この背景にあるのは複数の価値観で自分をトータルコーディネートしたい新しい世代の考えなのかもしれません。

## 海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツとして発信しております。本誌では、配信中の動画の一部をピックアップしてご紹介します。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

### Milltech Precision Engineering社 イギリス



### 自動化こそ進むべき道



Milltech Precision Engineering社はイギリスのお客様で、様々な部品の加工及び組立を行っています。30台以上のマシニングセンタを使用されており、精密加工において高い信頼性を築いている企業です。

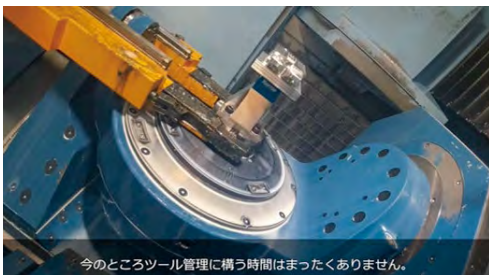
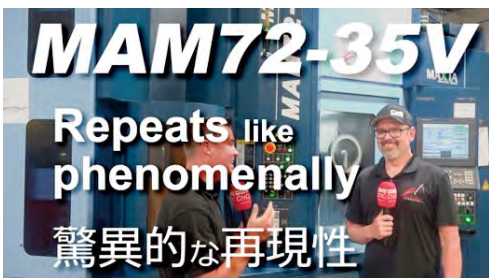
同社は、自動化の推進を目標としており、これまでに購入されたH.Plus-300 2台とMX-330は全てパレットチェンジャー付きの機械です。

インタビューでは常務取締役のMichael氏から、どの機械も素晴らしいと好評を頂いておりました。

また自動化のコンセプトに共感を示されており、同社SNSでは、「最新の自慢出来る設備」として投稿頂いており、マツウラ機に満足頂いているようです。

その他、同社のSNSには多くのマツウラ機に関する投稿がされており、マツウラ機の購入が同社にとって良い決断であった事が伺えます。

### Zero Hour Parts社 アメリカ



### 驚異的な再現性



Zero Hour Parts社は米ミシガン州に居を構えるお客様です。2004年にガレージからビジネスを始め、現在では1,000坪を超える工場で操業しています。

そんな同社が選び、好評であったマツウラ機はMAM72-35V PC32です。

オペレータのRyan氏は、以前、複数の3軸機を同時に稼働させるため治具や工具の段取りに工場内を駆け回っていました。しかし、マツウラを半年間使ってみて、「常識を覆す革新的な機械」「必要なツールが全部ついており、加工条件もそのまま使えるので安心。再現性が素晴らしい」と段取り時間が大幅に削減され、機械が効率的に稼働することに驚きを感じていました。

また、以前は加工精度のバラツキが悩みの種でしたが、「加工精度の再現性が高く、2つ目以降も同じ品質のものが加工できる」と加工精度の問題もなく機械を使用されています。

## 新体制のご紹介

## 組立本部



組立本部長 高島 桂二郎

関わる部分では、国内販売機の据付けや納入時の操作説明なども、組立本部の業務となります。

私は地元の工業高校を卒業後、1984年にマツウラに入社しました。入社後は組立本部（当時の製造部）に配属となり、以来一貫して組立本部での業務に携わっています。実務では主軸組立や、MC-700H、MC-900Hなど横形MCの本機組立などを担当しました。

若手時代に強く記憶していることがあります。入社直後から7年程は主軸組立を担当しました。当時の主軸は「ギアヘッド」と呼ばれ、ヘッド内部をオイルが通る構造となっ

ていました。主軸組立の過程で切粉やゴミが混入しないよう、ヘッドを洗浄する必要があります。洗浄場には立形MCのヘッドが20～30台も並んでおり、若手時代はそれらを一台一台丁寧に洗浄する日々を過ごしました。当時は永遠に続くような地道な作業を、正直申し上げて苦痛に思うこともありましたが、しかし振り返ってみると、一見単調に思える作業の積み重ねの中にこそ数多くの気づきがあり、繰り返しの中で着実にスキルが身に付きました。新しい挑戦は言うまでもなく大切です。ですがそれと同じくらい、地道な作業を丁寧に、そして正確に積み重ねることがマツウラのモノづくりには不可欠なのだと感じています。

組立本部では「当社製品を如何に信頼してご使用頂けるか」を常に念頭に置いて業務に臨んでいます。お客様に信頼して頂くためには、キサゲをはじめとする品質面のつくり込みはもちろん、製品を速やかにお届けできる効率的な生産体制が不可欠です。組立本部では引き続き、計画的なジョブローテーションによる技能者のスキルアップや、管理職者のマネジメント能力の強化に注力し、品質と効率の両面を高めて参ります。工場見学にお越し頂いた際にはぜひ、私ども組立本部のこだわりのモノづくりをご覧いただきたく思っております。

遥かに凌ぐ力強さを持っていると感じました。また、森保一、栗山英樹両監督のリーダーの指導方法も新世代に移行したと気付かされました。対話型、もしくは寄り添い型とでも言いましょうか。無論選手達は、国を代表しているエリート達で構成されていますから、一般人（一般社会）のリーダー論へと単純に転用は出来ないと思います。しかし、明らかに昔のそれとは違い、選手との距離感の違いを感じます。指導者は、コツコツと丁寧に準備を行い「リーダーの信じる勇気」と「若い選手の応える力」が組み合わされた時、素晴らしい成果に結び付くというお手本のようなものでした。多方面に影響力の大きかった両イベントだったと思います。両監督から学ぶことも多かったです。

## シングルorダブル

## チームマネジメント



社長 松浦 勝俊

2022年12月アルゼンチンの優勝で終えたサッカーワールドカップ、4カ月後日本の優勝で終えたWBC、どちらも見応えがありましたね。ワールドカップは、当初の目標であったベスト8には届かなかったけれど、ドイツ、スペインという優勝経験のある強豪国を下しての予選リーグ突破だったこともあり、とても印象に残りました。WBCは、大谷翔平選手というスーパースターが勿論際立っていましたが、他の選手も各々が持ち味を發揮して戦うチームとして完成されていました。福井県出身の吉田正尚選手、中村悠平選手も大活躍でした。一言で言うと強かった。優勝の瞬間は、鳥肌モノでした。ここ数年、地政学的な対立や新型コロナウイルスの問題ばかりで明るいニュースが乏しかったこともあって、久々にいい気分にして貰えました。ほんとスポーツの力は、偉大ですね。

両大会を振り返って思うのは、昨今、今の若者は、総じてひ弱なイメージが強いと言われているけれど、目的意識を持って鍛錬を積んだ若い世代は、私の世代を

さて、マツウラが応援している地場のサッカーチーム「福井ユナイテッド」も来年のJFL昇格を掛けて今期も北信越リーグで奮闘中です。地域貢献活動の一環から、他の地場企業の皆様と同様に出来る範囲の形で継続的に支援を行っています。今年こそは、地域チャンピオンズリーグを勝ち抜いて2024年春福井の北陸新幹線開通に合わせてJFL昇格を果たして貰いたいです。

# お知らせ

## 1 取締役および執行役員人事

組織変更に伴う取締役および執行役員の人事について、以下の通りに決定したことをここにお知らせいたします。

### 取締役および会計参与

氏名	役職
松浦 勝俊	代表取締役社長
高橋 英郎	取締役 品質・統合物流・組立本部管掌 執行役員 経営企画室長・輸出管理室長
松浦 悠人	取締役 営業・技術本部管掌 執行役員 DX推進室長・経営企画室副室長(新任)
長谷川 正治	会計参与

### 執行役員

氏名	役職
山岸 敏弘	執行役員 営業本部長
松原 英人	執行役員 技術本部長
加藤 敏彦	執行役員 品質本部長
一 裕信	執行役員 統合物流本部長
高畠 桂二郎	執行役員 組立本部長(新任)・武生工場長

## 2 辞令発令(3月21日付)

氏名	発令事項
坂野 喜代志	統合物流本部 生産管理 シニアマネージャー
市橋 佳巳	組立本部 製造技術 シニアマネージャー 兼 第一組立 シニアマネージャー
朝井 俊明	営業本部 営業サポート マネージャー
山本 裕人	組立本部 第二組立 マネージャー
戸田 美千香	経営企画室 管理 マネージャー

## 本号の書き終わり

\*3月度の工作機械受注額は1,410億円(前月比114%)と、1,000億円超は26か月連続となり堅調な水準を維持しています。内需は494億円(前月比127%)と各企業の期末効果もあり4か月ぶりに450億円超となりました。外需は917億円(前月比108%)と3か月ぶりに900億円超となりました。内需・外需ともに期末効果により前月を上回る受注額となりましたが、前年同月比ではいずれも80%台となり需要が落ち着いてきています。

\*今年3月、政府より新型コロナウイルス感染症対策に対する基本的対処方針の見直しが行われたこともあり、ようやく従来の生活に戻りつつあります。当社においても海外のお客様が工場見学に来社されることも少しずつ増え、海外子会社を交えたグローバルミーティングもマツウラ本社で行うなど、徐々にオンラインではなく対面で行うイベントも増えてきました。5月には4年ぶりに当社内で開催の展示会「Matsushita オープンハウス」を実施します。今回のオープンハウスは、「5軸+マルチパレットではじめる簡単

無人運転」をテーマに、無人運転に必要な要素やプロセスが体験できる企画展示を実施し、5軸機がはじめての方・経験者の方が機械納入後にすぐ実践できる夜間・週末運転のソリューションを紹介します。リアルならではの体験展示会や個別相談会など、「来て、見て、体験できる」内容となっております。マツウラ公式HP内の特設サイト内で見どころを解説している他、ご来場に必要の参加申し込みも受け付けております。皆様のご参加をお待ちしております。